

質問フォームへのご意見・ご質問

2024.10.21

第18回 コンクリート構造物の品質確保に関する技術講習会

Q1

山口システムは実構造物から得たデータを検証しながら次の設計・施工に活用するPDCAサイクルを活用しています。したがって、ガイドとして示している規準、またデータベースに蓄積しているデータは、正確であるだけでなく、コンクリート標準示方書・国等の基準・使用材料・環境などの変化に沿っているか、陳腐化が生じていないか絶えず検証されているべきです。

ガイドの名称に改訂年を付記しているのは、追加したデータの考察、規準の変更の要否確認を定期的に継続していることをシステム利用者に示す意図があるはずです。

山口システムのガイドやデータベースを安心して、信頼して利用するには、例えば水道水が飲料に適しているか常時モニターしているのと同じように、定期的に検証と、その結果を明示することが大切だと思います。今後のガイドの改訂についてお教えてください。

質問者

生コン製造者

設計コンサル

工事施工者

発注者(山口県職員)

その他()

A1

ご質問のとおり、山口システムではPDCAサイクルに則り品質確保ガイドの改訂を行うこととしています。今後も山口システムを継続するために、新たな知見や蓄積されたデータ等を基に、必要に応じてガイドの改訂を重ねていく考えです。

回答者

山口県 技術管理課 阿部亮太

Q2

田村先生からは山口システムの根幹を、細田先生からは恵庭市の事例で、規模に見合ったシステムであることの大切さなどを示していただきました。

私は山口県外の自治体に勤務していますが、山口県のシステムを導入したくても、あまり上手くいっていません。

山口システムを、山口県以外の自治体や、山口県より規模の大きな国や、規模の小さな市町村、あるいは個別の建設会社などに導入する際のアドバイスや注意点があれば、お考えをお聞かせください。

質問者

生コン製造者

設計コンサル

工事施工者

発注者(山口県外)

その他()

A2

(技術講習会当日の回答要旨)

人間がやることなので動かす人が必要。山口県では、発注者に志の高い職員がいて、それに呼応する学、施工者、設計者、製造者がいた。まずはそのような人達が集まって、その地域あった浸透の仕方や価値観をもって、動くことが大事。(都城高専 田村隆弘)

どうして品質確保をやらないといけないのかという動機を大事にするようにし、それに共鳴してくれる人を増やすようにしてきた。山口県でうまくいったのは、本当にひび割れ問題に困っていたから。東北の場合は、環境作用が厳しくて今のルールのみで造っても劣化するという実態があった。このように課題を解決したいというところを掘り下げることが後の原動力になる。(横浜国立大学 細田暁)

回答者

都城高専 田村隆弘、横浜国立大学 細田暁

意見

質問ではなく、細田先生のお話の感想です。

インフラは後世への最高のプレゼントであるということ、自分たちの仕事に誇りを感じるようなお話でした。

また、幸せな人の生産性が高いという高橋和男さんのお話も、本当の意味での働き方改革だと思います。

これからも、誇りを持ってインフラをつくっていきたいと思います！

質問者

生コン製造者

設計コンサル

工事施工者

発注者(山口県職員)

その他()